

【ご案内】

「家庭科の授業を語る会（第203回）」の開催

梅雨に入り、紫陽花の色がいっそう鮮やかです。とはいえ、これから梅雨本番となり大雨による災害も考えられますので、どうぞ皆さんお気を付け下さい。

さて、第203回の「家庭科の授業を語る会」では、瀧元先生が家庭科授業において子どもたちがどのように対象を捉えていくのか、その過程についてお話下さい。今回は北海道からの話題提供となりまして、開催方法は講義室での対面形式を取らず、オンラインのみの開催となりますのでお気を付けください。また、開催時間も1時間と短くなっています。

オンライン開催ですので、遠方の皆さんもどうぞお気軽にご参加下さい。お待ちしています。

●日 時 : 2025年6月21日(定例の第3土曜日) 午後2時から午後3時

●場 所 : ズーム開催 ↓

<https://us02web.zoom.us/j/82555748274?pwd=PGhkoWy4NfF2eigG9GYazWimO5rYa5.1>

○ミーティング ID: 825 5574 8274 ○パスコード: 1Bbg6u

●話 題 : 家庭科の学びにおける”意味の変化”を考える

●話題提供者: 瀧元有理（元北海道大学教育学院）

「家庭科の授業を語る会（第202回）」（2025年5月17日）の報告

○話 題 : 日常生活での実践につながる実習授業の在り方

○話題提供者: 衣笠 萌木（宮崎大学附属中学校）

第202回の語る会では、今年度から宮崎大学附属中学校に赴任された衣笠萌木先生に「日常生活での実践につながる実習授業の在り方」について話題提供して頂きました。また、後半はICTを使った実習指導や今後の課題について検討しました。

今回、衣笠先生がこれまで実施してきた調理実習について紹介して下さいましたが、特に印象的だったのは「一人一調理」を基本として実習をされていた点です。全ての子どもたちが調理に携わり、ひとりで全ての工程を経験できるように工夫されていました。また、蒸し料理をただの蒸しパン作りとするのではなく、子どもが興味を持てるようにチョコチップを加えるなど、子どもの視点に立って、自分なりに献立をアレンジしていました。授業内では、実習を行う前の最初の15分で実際に先生が作る工程を子どもに見せる手立てをされており、そうすることで、子どもたちは調理の流れを理解し、スムーズに実習に取り組むことができました。

今回紹介された「一人一調理」は、各々が技能を身に付けることができ、より日常生活に繋がる実践的な実習であると感じました。私自身も家庭科の学びをより日常生活に結びつけることができるような手立てを考え、実践していきたいと思いました。 (文責: 甲斐)

連絡先: 家庭科の授業を語る会（事務局）

〒889-2129 宮崎市学園木花台西1-1 宮崎大学家政教育講座内

伊波 富久美（大学院教育学研究科） : Tel/Fax 0985-58-7539（直通）

: メールアドレス e09101u@cc.miyazaki-u.ac.jp

●「家庭科の授業を語る会」のホームページ: <https://cms.miyazaki-c.ed.jp/ssc074/htdocs/>